九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

High expression of microRNA-155 is associated with the aggressive malignant behavior of gallbladder carcinoma

河野, 博

https://hdl.handle.net/2324/1398327

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

KYUSHU UNIVERSITY

氏　　名：河野　博

論文題名：　High expression of microRNA-155 is associated with aggressive malignant behavior of gallbladder carcinoma

（microRNA-155 高発現は胆嚢癌の悪性度に関連している）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

胆嚢癌は、近年の診断・治療技術の進歩にも関わらず、依然として予後不良な疾患である。これまで microRNA(miR)の胆嚢癌における役割についての報告はほとんどないが、その中で miR-155 が炎症関連発癌に関与していることに注目し、胆嚢癌における miR-155 発現の臨床的意義および生物学的機能を検証した。胆嚢癌および膵・胆管合流異常(PBM)併存胆嚢の手術切除標本における miR-155 発現を半定量逆転写ポリメラーゼ連鎖反応法で測定し、胆嚢癌における miR-155 発現と臨床病理学的因子との関連を解析した。さらにヒト胆嚢癌細胞株に miR-155 inhibitor あるいは mimic を導入し、胆嚢癌の増殖能及び浸潤能に与える影響を評価した。胆嚢癌では PBM 併存胆嚢(p=0.007)、正常胆嚢(p=0.04)と比較して miR-155 が有意に高発現していた。また miR-155 高発現はリンパ節転移陽性(p=0.01)および低生存率(p=0.02)と有意に関連していた。*In vitro* では miR-155 発現異常が胆嚢癌細胞株の増殖および浸潤能に影響を与えることが示された。以上より、miR-155 高発現が胆嚢癌の悪性度と関連しており、胆嚢癌の予後予測因子および治療標的となる可能性があることが示唆された。